

平成 27 年度

排出事業者と優良産廃処理業者の連携による循環産業形成支援業務

報告書

平成 28 年 3 月

環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部

【 目次 】

| | | |
|-----|-------------------|----|
| I. | はじめに | 1 |
| 1. | 本事業の目的 | 1 |
| 2. | 実施機関 | 1 |
| II. | 実施結果 | 2 |
| 1. | フォーラム/ワークショップ実施概要 | 2 |
| ① | タイトル | 2 |
| ② | 開催日時・場所 | 2 |
| ③ | 参加対象者 | 2 |
| ④ | プログラム | 3 |
| ⑤ | 会場レイアウト | 6 |
| 2. | ワークショップ企画・運営 | 8 |
| ① | 狙い | 8 |
| ② | ワークショップタイトル | 8 |
| ③ | 基本方針・実施方法 | 8 |
| ④ | タイムスケジュール | 8 |
| ⑤ | ファシリテーター | 9 |
| ⑥ | グループ編成 | 9 |
| ⑦ | 事前アンケート | 9 |
| ⑧ | プログラムデザイン | 10 |
| ⑨ | アウトプットフォーマット | 15 |
| 3. | 参加者招致 | 17 |
| ① | 集客目標 | 17 |
| ② | 集客方法・対象及びスケジュール | 17 |
| ③ | 申込方法 | 19 |
| ④ | 排出事業者の申込方法 | 19 |
| ⑤ | 処理業者の申込方法 | 24 |
| ⑥ | 集客結果 | 30 |
| ⑦ | 受付方針 | 30 |
| 4. | パブリシティ・メディア対応 | 30 |
| ① | 環境省ホームページへの開催結果掲載 | 30 |
| ② | メディア取材対応 | 31 |
| 5. | アンケート | 31 |
| ① | 狙い | 31 |
| ② | アンケート用紙 | 32 |

| | |
|----------------------------------|----|
| ③ 集計結果 | 33 |
| III. 総括 | 49 |
| 1. 排出事業者及び処理業者間の連携の促進について | 49 |
| 2. 処理業者の優良認定取得の機運醸成について | 49 |
| 3. 処理業者の優良認定制度普及のための施策について | 50 |
| 4. 運営面について | 51 |
| 【別添資料】 | 52 |

I. はじめに

1. 本事業の目的

廃棄物の処理においての関係者は排出事業者と産廃処理業者であり、社会の要請に応えるためにはお互いの協力が不可欠である。また、両者が連携を強化することにより、廃棄物処理に関する課題軽減やリサイクルの促進、更には地域を中心とした社会貢献活動などの展開が見込めるのではないかと考えられる。企業の環境やCSRの取組みにおいて、グリーン調達やCSR調達といったサプライチェーン全体で事業活動を捉えることが社会から求められるようになってきている。

そこで、排出事業者と産廃処理業者によって構成されるフォーラムを開催し、両者による連携・協働の優良事例を紹介し、そのあり方や可能性について意見交換を行った。

なお、平成25年度は東京会場、大阪会場、平成26年度は東京会場、名古屋会場、福岡会場で開催したが、参加者の要望、処理業者ニーズ等を踏まえ、平成27年度は東京会場、名古屋会場、広島会場の3カ所で開催した。

2. 実施機関

本業務は、環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部産業廃棄物課の企画に基づき、アミタ株式会社が環境省からの請負業務として実施した。

II. 実施結果

1. フォーラム/ワークショップ実施概要

① タイトル

「環境省主催 フォーラム/ワークショップ
連携の先にあるものは？排出事業者と優良産廃処理業者のための共創フォーラム」

② 開催日時・場所

[第1回<名古屋会場>]

日時：平成28年1月26日（火）

場所：ウインクあいち 1202 会議室

〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅4丁目4-38

[第2回<東京会場>]

日時：平成28年1月28日（木）

場所：東京国際フォーラム G409 会議室

〒100-0005 東京都千代田区丸の内3丁目5番1号

[第3回<広島会場>]

日時：平成28年2月10日（水）

場所：ワークピア広島 3階 蘭ABC

〒732-0825 広島市南区金屋町1-17

③ 参加対象者

排出事業者及び優良産廃処理業者等（廃棄物処理法に規定されている優良産廃処理業者認定制度（以下、「優良認定制度」という。）の認定を取得（以下、「優良認定業者」という。）又は取得を検討中の業者）

④ プログラム

[名古屋会場]

| 時間 | 進行 |
|---|--|
| 13:00～13:10 | 開会挨拶 環境省 大臣官房廃棄物・リサイクル対策部 産業廃棄物課 課長補佐 田代 浩一氏 |
| 13:10～13:45 (35分) | 【第1部】 基調講演 「廃棄物処理における戦略的連携～連携の先にあるものは～？」 北九州市立大学大学院 マネジメント研究科 准教授 松永 裕己氏 |
| 13:45～14:10 (25分) | 【第2部】 優良事例プレゼンテーション 「眼鏡店から排出されるレンズ切削カス等の回収システムについて」 東海光学株式会社 品質保証部 ISO 推進室 マネージャー 鈴木 幹也氏 |
| 14:10～14:20 (10分) | 「優良さんばいナビ」 についてのご紹介： 公益財団法人産業廃棄物処理事業振興財団 企画調査部 部長 改田 耕一氏 |
| 14:20～14:30 | 休憩 |
| 14:30～17:20 (170分) ※ 途中休憩を はさみます | 【第3部】 ワークショップ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><プログラム></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介・アイスブレイク ・グループワーク ・プレゼンテーション ・フィードバック・気付きの共有 </div> |
| 17:20～17:25 | 閉会挨拶 |
| 17:25～18:00 | 名刺交換会 ※任意でのご参加となります |

[東京会場]

| 時間 | 進行 |
|---|--|
| 13:00～13:10 | 開会挨拶 環境省 大臣官房廃棄物・リサイクル対策部 産業廃棄物課 課長補佐 田代 浩一氏 |
| 13:10～13:45 (35分) | 【第1部】基調講演 「循環型社会における環境経営の展開」 大東文化大学 環境創造学部 環境創造学科 准教授 鶴田 佳史氏 |
| 13:45～14:10 (25分) | 【第2部】優良事例プレゼンテーション 「キューピーグループの 社会・環境活動について」 キューピー株式会社 広報・CSR本部 CSR部 社会・環境チーム 松原 由紀氏 |
| 14:10～14:20 (10分) | 「優良さんばいナビ」についてのご紹介: 公益財団法人 産業廃棄物処理事業振興財団 企画調査部 部長 改田 耕一氏 |
| 14:20～14:30 | 休憩 |
| 14:30～17:20 (170分) ※ 途中休憩を はさみます | 【第3部】ワークショップ ＜プログラム＞ ・自己紹介・アイスブレイク ・グループワーク ・プレゼンテーション ・フィードバック・気付きの共有 |
| 17:20～17:25 | 閉会挨拶 |
| 17:25～18:00 | 名刺交換会 ※任意でのご参加となります |

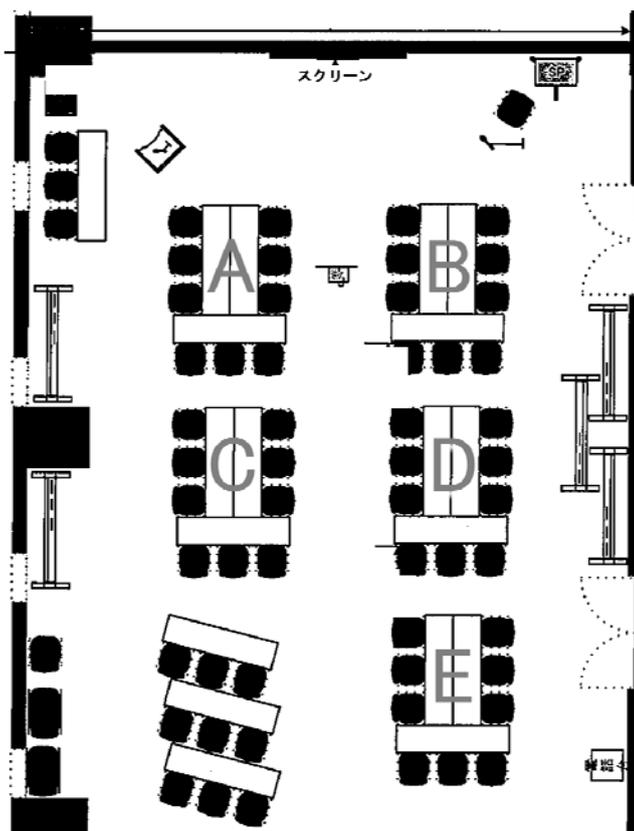
[広島会場]

| 時間 | 進行 |
|---|--|
| 13:00～13:10 | 開会挨拶 環境省 大臣官房廃棄物・リサイクル対策部 産業廃棄物課 課長補佐 田代 浩一氏 |
| 13:10～13:45 (35分) | 【第1部】基調講演 「廃棄物処理における戦略的連携～連携の先にあるものは～？」 北九州市立大学大学院 マネジメント研究科 准教授 松永 裕己氏 |
| 13:45～14:10 (25分) | 【第2部】優良事例プレゼンテーション 「排出事業者と処理業者との連携、協業の先にあるもの」 株式会社オガワエコノス 営業統括部 企画開発室 室長 岡 弘氏 |
| 14:10～14:20 (10分) | 「優良さんばいナビ」についてのご紹介： 公益財団法人 産業廃棄物処理事業振興財団 企画調査部 部長 改田 耕一氏 |
| 14:20～14:30 | 休憩 |
| 14:30～17:20 (170分) ※ 途中休憩を はさみます | 【第3部】ワークショップ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><プログラム></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介・アイスブレイク ・グループワーク ・プレゼンテーション ・フィードバック・気付きの共有 </div> |
| 17:20～17:25 | 閉会挨拶 |
| 17:25～18:00 | 名刺交換会 ※任意でのご参加となります |

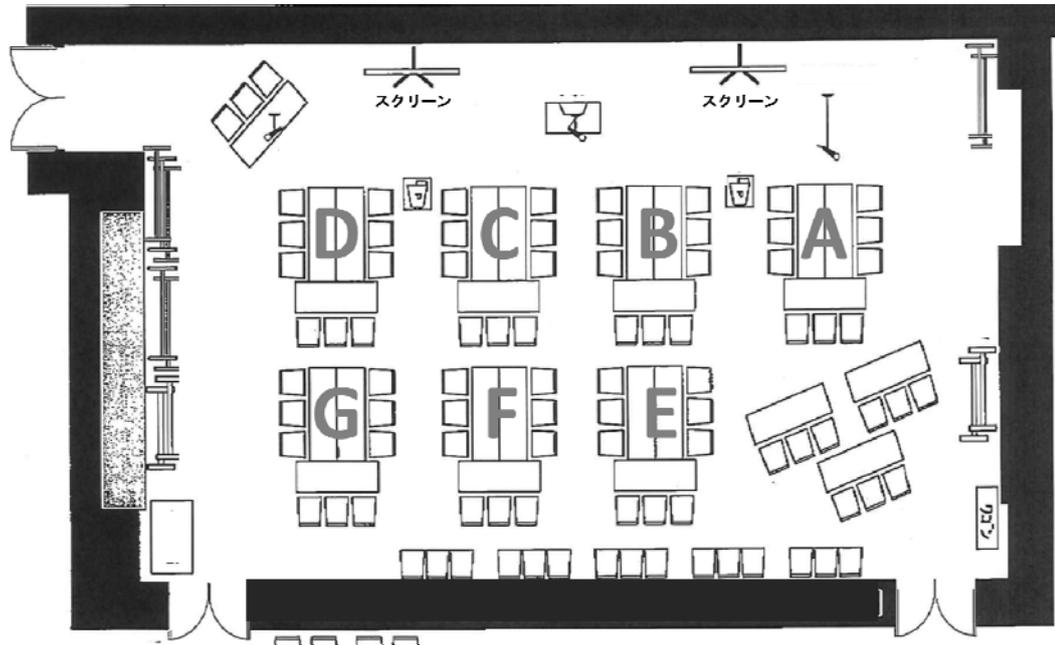
⑤ 会場レイアウト

事例紹介から円滑にワークショップに移行するため、プログラム開始時よりアイランド型のテーブル配置とした。

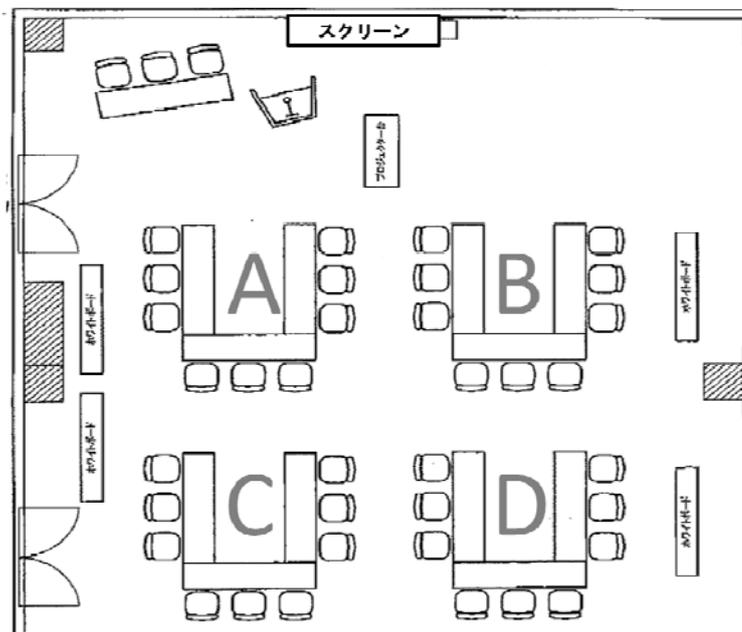
[名古屋会場]



[東京会場]



[広島会場]



2. ワークショップ企画・運営

① 狙い

排出事業者・処理業者双方が、(可能な限り本音ベースで) それぞれの課題、事情、展望や考えていることに関する理解を深め、信頼関係構築のきっかけを作る。また、適正処理、更なる 3R の推進や地域貢献活動、さらには地域活性化を実現するための連携・協働のあり方について気付きを得られるようにする。

② ワークショップタイトル

「信頼につながる連携のカタチ」

③ 基本方針・実施方法

- ・ 現状の制約・立場に縛られずに、あるべき姿やできることを自由に発想する場とした(何らかの決まった答えや合意を導き出す場ではない)。
- ・ 自由な発言ができる雰囲気作りと相手方の状況理解や考え方への理解を深めるため、冒頭に廃棄物処理業務における排出事業者・処理業者双方の現在の課題について意見交換を行った。またこれからの社会変化に対応するためには連携が必要であることを認識し、活発な意見交換をしていただくため、「将来起こりうる課題」についての意見交換も取り入れた。
- ・ グループワークの円滑な運営のため、模造紙に印字したワークシートを掲示し、意見交換を進めた。

④ タイムスケジュール

| 時 間 | 所要時間 | 内 容 |
|-------------|------|---|
| 14:30～14:35 | 5分 | グループワーク全体説明 |
| 14:35～15:00 | 25分 | 自己紹介・アイスブレイク |
| 15:00～16:15 | 75分 | ・ 現在・未来の廃棄物処理に関する課題について ・ 課題を解決するためには？ ・ どんな連携が必要でしょうか？理想の連携のあり方とは？ |
| 16:15～16:20 | 5分 | 休憩 |

| | | |
|-------------|-----|---------|
| 16:20～17:05 | 45分 | 発表 |
| 17:05～17:10 | 5分 | フィードバック |
| 17:10～17:20 | 10分 | 気付きの共有 |

⑤ ファシリテーター

| 所属 | 氏名 |
|--|----------|
| 公益財団法人産業廃棄物処理事業振興財団 企画調査部 部長 | 改田 耕一 氏 |
| 公益財団法人産業廃棄物処理事業振興財団 情報システム部 部長 | 柴崎 和夫 氏 |
| アマタ株式会社 環境戦略デザイングループ 環境戦略支援チーム チームリーダー | 田部井 進一 氏 |
| アマタ株式会社 環境戦略デザイングループ 環境戦略支援チーム 大阪営業所 ユニットリーダー | 末次 貴英 氏 |
| アマタ株式会社 環境戦略デザイングループ 環境戦略支援チーム 大阪営業所 | 宮原 伸朗 氏 |
| アマタ株式会社 地上資源プラットフォームグループ 東日本カスタマーホスピタリティチーム | 小峯 慎司 氏 |

⑥ グループ編成

8人×6グループを基本とし、排出事業者の業種、排出事業者と処理業者の人数のバランスを考慮してグループを決定した。

※詳細は「資料1. 参加者グループリスト及び事前アンケート一覧」参照

⑦ 事前アンケート

グルーピングやワークショップの効果的な進行のための基礎情報として、参加申込み時に以下の質問項目に回答してもらうようにした。

《属性》

業種、業務内容

《以下、資源の循環・有効利用に関して》

A) これまでに自社で排出事業者／処理業者等と連携・協働して実施した取組み事例

B) 現在の課題意識や今後取組みたいテーマ

《日頃の廃棄物管理（処理）業務に関して》

排出事業者／処理業者とのやり取りで困ったことがあればご記入ください

《その他》

本イベントに期待すること

※詳細は「資料1. 参加者グループリスト及び事前アンケート一覧」参照

⑧ プログラムデザイン

ワークショップは各班にて実施するため、ファシリテーターによって進め方や意見交換の方向性が異ならないよう、下記のようなマニュアルを作成し、各ファシリテーターがこれに沿ってプログラムを進行することとした。各ワークにて想定される意見も掲載し、全参加者が同じような議論ができるようにした。

| 開始時間 | 所要時間 | 内 容 |
|-------|------|---|
| — | — | 準備するもの 模造紙2種類：ワークシート1)～2) 付箋、マーカー、ボールペン（各班10本程度） 注意点 1)司会は時間を見ながら、各班のワークの進み具合を確認し、適宜時間をお知らせしてください。 2)ワークショップ中は休憩を取っていません。班で適宜休憩してください。 |
| 14：30 | 5分 | 司会： 「ではこれより第3部を始めます。」 第3部の目的とテーマの説明を行う。 ワークの前に各班自己紹介とする旨説明する。 |
| 14：35 | 25分 | 0 自己紹介 ・自己紹介シートへの記入 個人ワーク 2・3分 ・口頭での自己紹介 20分（2分×9名程度） |

| | | | | | | |
|-------------------------------------|--|---|--------|------|-----------------|--|
| | | <p>0.1 進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加者名やその他受付時の質問項目が事前に印刷された A4 用紙を参加者に配布する。 <p>※A4 用紙には、以下 4 のうち、上 3 つが記載済。</p> <ul style="list-style-type: none"> 企業名・名前 業務内容 ワークショップに期待すること 最近気になること <p>1) 各参加者に、4 つ目の枠に「最近気になること」を書いていただく。それ以外の場所についても申込み時と違うことを書きたければ、修正していただく。</p> <p>2) 自己紹介。まずはファシリテーターから開始し例を見せる。</p> <p>0.2 ポイント</p> <p>産廃処理業者には、「業務内容」で自社の強みを入力いただいています。前回のフォーラムのアンケートにて、排出事業者より「産廃処理業者の PR が欲しい」というご要望があり、反映させたものです。今回は自己紹介の場で、産廃処理業者には自社 PR をしていただきます。</p> <p>0.3 A4 用紙の内容</p> <table border="1" data-bbox="454 1254 1268 1556"> <tr> <td>企業名・名前</td> <td>業務内容</td> </tr> <tr> <td>本ワークショップに期待すること</td> <td>最近気になること (仕事でも趣味でも可。あえて聞かないことで参加者の性格が分かるかもしれません。)</td> </tr> </table> | 企業名・名前 | 業務内容 | 本ワークショップに期待すること | 最近気になること (仕事でも趣味でも可。あえて聞かないことで参加者の性格が分かるかもしれません。) |
| 企業名・名前 | 業務内容 | | | | | |
| 本ワークショップに期待すること | 最近気になること (仕事でも趣味でも可。あえて聞かないことで参加者の性格が分かるかもしれません。) | | | | | |
| ワーク 1) 現在・未来の廃棄物処理に関する課題について | | | | | | |
| 15 : 00 | 5 分 | <p>1 ワーク 1) について進め方の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> 「現状の課題」と「将来課題になりうること」を付箋に記入 個人ワーク 5 分 各人による発表 20 分 ファシリテーターによる課題のグルーピング・全体のまとめ 5 分 <p>1.1 進め方</p> | | | | |

| 15 : 05 | 25 分 | <p>・ワークシート 1)、模造紙を使う。</p> <p>(5 分)</p> <p>・廃棄物処理に関する「現状の課題」と「将来課題になりうること」について考えてもらい、各人付箋に記入する。</p> <p>※申込時にいただいた「現状の課題」に関するご意見をまとめた一覧を各班 2 枚置いておくので参考にしてください。</p> <p>(20 分)</p> <p>・お一人ずつ付箋を紹介しながら発表。付箋は模造紙に貼る。</p> <p>・全員が発表したところで、課題のグルーピングをファシリテーターが行い、課題の共通認識をもつ。</p> <p>1.2 模造紙イメージと記入例</p> <table border="1" data-bbox="454 824 1316 1736"> <thead> <tr> <th></th> <th>排出事業者</th> <th>産廃処理業者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>現在の課題</td> <td> <記入例> ・廃棄物処理フローが分かりにくい。 ・適正な処理を適正な費用で行ってくれる処理業者の選定方法 など </td> <td> <記入例> ・見積時に廃棄物の詳細情報が分からない。 ・契約書と異なる廃棄物の処理委託を突然受ける。 ・搬出時の受け渡し条件が連絡と異なる（荷姿、保管場所）。 など </td> </tr> <tr> <td>将来課題になりうること</td> <td> <記入例> ・再資源化率向上や国内の人口減による廃棄物総量の減少 ・埋立処分地の残余年数の減少 →処理費用が上がる？ ・SCOPEⅢ(サプライチェーンまで含めた環境負荷測定と管理)の対応 など </td> <td> <記入例> ・廃棄物総量の減少 →取引量減少により処理業者の競争激化？ 会社の価値をどう上げるかが課題？ ・埋立処分地の残余年数減少 →埋立事業が成り立たない埋立中心の業者はどうするか？ など </td> </tr> </tbody> </table> | | 排出事業者 | 産廃処理業者 | 現在の課題 | <記入例> ・廃棄物処理フローが分かりにくい。 ・適正な処理を適正な費用で行ってくれる処理業者の選定方法 など | <記入例> ・見積時に廃棄物の詳細情報が分からない。 ・契約書と異なる廃棄物の処理委託を突然受ける。 ・搬出時の受け渡し条件が連絡と異なる（荷姿、保管場所）。 など | 将来課題になりうること | <記入例> ・再資源化率向上や国内の人口減による廃棄物総量の減少 ・埋立処分地の残余年数の減少 →処理費用が上がる？ ・SCOPEⅢ(サプライチェーンまで含めた環境負荷測定と管理)の対応 など | <記入例> ・廃棄物総量の減少 →取引量減少により処理業者の競争激化？ 会社の価値をどう上げるかが課題？ ・埋立処分地の残余年数減少 →埋立事業が成り立たない埋立中心の業者はどうするか？ など |
|-------------|---|--|--|-------|--------|-------|--|--|-------------|---|--|
| | 排出事業者 | 産廃処理業者 | | | | | | | | | |
| 現在の課題 | <記入例> ・廃棄物処理フローが分かりにくい。 ・適正な処理を適正な費用で行ってくれる処理業者の選定方法 など | <記入例> ・見積時に廃棄物の詳細情報が分からない。 ・契約書と異なる廃棄物の処理委託を突然受ける。 ・搬出時の受け渡し条件が連絡と異なる（荷姿、保管場所）。 など | | | | | | | | | |
| 将来課題になりうること | <記入例> ・再資源化率向上や国内の人口減による廃棄物総量の減少 ・埋立処分地の残余年数の減少 →処理費用が上がる？ ・SCOPEⅢ(サプライチェーンまで含めた環境負荷測定と管理)の対応 など | <記入例> ・廃棄物総量の減少 →取引量減少により処理業者の競争激化？ 会社の価値をどう上げるかが課題？ ・埋立処分地の残余年数減少 →埋立事業が成り立たない埋立中心の業者はどうするか？ など | | | | | | | | | |

ワーク 2) 課題を解決するためには？

| 15 : 30 | 25 分 | <p>2 ワーク 2)について進め方の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワーク 1)の結果から出てきた課題を解決するための方法について意見交換を行う。 ・出てきた意見から、排出事業者と産廃処理業者との連携が不可欠という結論を導きたい。 ・ここで書記、発表者を決める。(同じ方でも可) <p>2.1 進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート 2)を使う。 <p>(25 分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「現在の課題」「将来起こりうる課題」についての解決方法について、意見交換を進める。 ・排出事業者と産廃処理業者との連携が不可欠との気づきがあるとよい。また、ここでの意見が連携の理想像につながるとよい。 ・発表につながる内容になってくるため、ここで書記、発表者を決める。同じ方でもよい。 <p>2.2 模造紙イメージと記入例</p> <table border="1" data-bbox="451 1122 1319 1821"> <thead> <tr> <th></th> <th>排出事業者</th> <th>産廃処理業者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>課題の解決方法</td> <td> <記入例> <ul style="list-style-type: none"> ・法令順守面からもサプライチェーンの面からも、安心安全な処理委託が大事だという社内教育を実施し、産廃処理業者へ廃棄物情報を正確に伝えるよう努力する。 ・環境方針や環境への取組みを正しく産廃処理業者へ伝え、意図を理解してくれる産廃処理業者を探す。 など </td> <td> <記入例> <ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物処理のプロとして、廃棄物情報を適切に出してもらい必要性を伝えたり、処理技術や廃棄物処理法の最新動向について情報提供を行う。 など </td> </tr> <tr> <td>連携のあり方</td> <td>ワーク 3) で記入</td> <td>ワーク 3) で記入</td> </tr> </tbody> </table> | | 排出事業者 | 産廃処理業者 | 課題の解決方法 | <記入例> <ul style="list-style-type: none"> ・法令順守面からもサプライチェーンの面からも、安心安全な処理委託が大事だという社内教育を実施し、産廃処理業者へ廃棄物情報を正確に伝えるよう努力する。 ・環境方針や環境への取組みを正しく産廃処理業者へ伝え、意図を理解してくれる産廃処理業者を探す。 など | <記入例> <ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物処理のプロとして、廃棄物情報を適切に出してもらい必要性を伝えたり、処理技術や廃棄物処理法の最新動向について情報提供を行う。 など | 連携のあり方 | ワーク 3) で記入 | ワーク 3) で記入 |
|---------|--|--|--|-------|--------|---------|--|--|--------|------------|------------|
| | 排出事業者 | 産廃処理業者 | | | | | | | | | |
| 課題の解決方法 | <記入例> <ul style="list-style-type: none"> ・法令順守面からもサプライチェーンの面からも、安心安全な処理委託が大事だという社内教育を実施し、産廃処理業者へ廃棄物情報を正確に伝えるよう努力する。 ・環境方針や環境への取組みを正しく産廃処理業者へ伝え、意図を理解してくれる産廃処理業者を探す。 など | <記入例> <ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物処理のプロとして、廃棄物情報を適切に出してもらい必要性を伝えたり、処理技術や廃棄物処理法の最新動向について情報提供を行う。 など | | | | | | | | | |
| 連携のあり方 | ワーク 3) で記入 | ワーク 3) で記入 | | | | | | | | | |

| ワーク 3) どんな連携が必要でしょうか？理想の連携のあり方とは？ | | | | | | | | | | | |
|-----------------------------------|--|---|--|-------|--------|-------------|---------------|---------------|--------|--|--|
| 15 : 55 | 20 分 | <p>3 ワーク 3) について進め方の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワーク 2) の結果から、どのような連携ができるか意見交換を行う。 ・発表準備 <p>3.1 進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート 2) を使う。 <p>(35 分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な連携の方法や連携のあり方について意見交換を行う。 ・理想の排出事業者/処理業者の役割分担などが見えてくるとよい。 <p>3.2 模造紙イメージと記入例</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>排出事業者</th> <th>産廃処理業者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>課題の 解決方法</td> <td>上記、ワーク 2) 参照。</td> <td>上記、ワーク 2) 参照。</td> </tr> <tr> <td>連携のあり方</td> <td> < 記入例 > 排出事業者内 <ul style="list-style-type: none"> ・再資源化の技術開発 ・優良認定制度＋ロコミサイトの立ち上げによる処理業者情報の交換 排出事業者-処理業者 <ul style="list-style-type: none"> ・再資源化の技術開発 (株式会社キューピーの事例) ・再資源化ルートの確立 (東海光学株式会社の事例) など </td> <td> < 記入例 > 産廃処理業者内 <ul style="list-style-type: none"> ・再資源化の技術開発 ・苦手なエリアについての業務提携 処理業者-排出事業者 <ul style="list-style-type: none"> ・委託を受けている処理方法についての更なる提案 ・法改正情報の提供 など </td> </tr> </tbody> </table> <p>司会：16:00 に「15 分前」、16:10 に「5 分前」のアナウンスをする。</p> | | 排出事業者 | 産廃処理業者 | 課題の 解決方法 | 上記、ワーク 2) 参照。 | 上記、ワーク 2) 参照。 | 連携のあり方 | < 記入例 > 排出事業者内 <ul style="list-style-type: none"> ・再資源化の技術開発 ・優良認定制度＋ロコミサイトの立ち上げによる処理業者情報の交換 排出事業者-処理業者 <ul style="list-style-type: none"> ・再資源化の技術開発 (株式会社キューピーの事例) ・再資源化ルートの確立 (東海光学株式会社の事例) など | < 記入例 > 産廃処理業者内 <ul style="list-style-type: none"> ・再資源化の技術開発 ・苦手なエリアについての業務提携 処理業者-排出事業者 <ul style="list-style-type: none"> ・委託を受けている処理方法についての更なる提案 ・法改正情報の提供 など |
| | 排出事業者 | 産廃処理業者 | | | | | | | | | |
| 課題の 解決方法 | 上記、ワーク 2) 参照。 | 上記、ワーク 2) 参照。 | | | | | | | | | |
| 連携のあり方 | < 記入例 > 排出事業者内 <ul style="list-style-type: none"> ・再資源化の技術開発 ・優良認定制度＋ロコミサイトの立ち上げによる処理業者情報の交換 排出事業者-処理業者 <ul style="list-style-type: none"> ・再資源化の技術開発 (株式会社キューピーの事例) ・再資源化ルートの確立 (東海光学株式会社の事例) など | < 記入例 > 産廃処理業者内 <ul style="list-style-type: none"> ・再資源化の技術開発 ・苦手なエリアについての業務提携 処理業者-排出事業者 <ul style="list-style-type: none"> ・委託を受けている処理方法についての更なる提案 ・法改正情報の提供 など | | | | | | | | | |
| 16 : 15 | 5 分 | <p>休憩 (5 分)</p> <p>※ここで発表の準備をします。</p> | | | | | | | | | |
| 16 : 20 | 45 分 | <p>グループ発表</p> <p>ワークシート 2) を中心に、ワークショップでの意見を発表する。 ワーク 1) の課題→ワーク 2) の解決方法→ワーク 3) 連携のあり方という順で簡単に発表いただく。</p> | | | | | | | | | |

| | | |
|-------|-----|--|
| 17:05 | 5分 | 松永先生（広島会場は鶴田先生）、環境省、ファシリテーター代表（田部井 TL）より総評をいただく |
| 17:10 | 10分 | 気付きの共有 各グループの発表、及び松永先生、環境省からのフィードバックを聞いて、各自が思ったことを発表させる。 ※時間がなければ、数人指名し、話してもらう。 |
| 17:20 | — | ワークショップ終了 |

⑨ アウトプットフォーマット

記録のため、右上にグループ名記入欄を設けた。

【ワークシート1：現在・未来の廃棄物処理に関する課題について】

| ワークシート1：現在・未来の廃棄物処理に関する課題について | | グループ |
|-------------------------------|-------|--------|
| | 排出事業者 | 産廃処理業者 |
| 現在の課題 | | |
| 将来課題になりうること | | |

【ワークシート2：課題の解決方法とは？】

| ワークシート2：課題の解決方法とは？ | | グループ |
|--------------------|-------|--------|
| | 排出事業者 | 産廃処理業者 |
| 課題の解決方法 | | |
| 連携のあり方 | | |

3. 参加者招致

① 集客目標

参加者枠は、各会場とも、排出事業者、処理業者（優良認定業者もしくは認定取得を検討中の事業者）各 25 名だが、当日までのキャンセル発生を見込み、各 27 名（各テーブル最大 9 名とする）を集客目標とした。

② 集客方法・対象及びスケジュール

[名古屋会場]

| 実施日 | 集客対象 | 施策 |
|-------------|-----------------|---|
| H27. 11. 27 | 排出事業者及び 処理業者 | 環境省主催フォーラム/ワークショップ 「連携の先にあるものは？排出事業者と優良処理事業者のための共創フォーラム」の開催及び参加者の募集について (お知らせ) http://www.env.go.jp/press/101689.html |
| H27. 12. 7 | 排出事業者及び 処理業者 | 産廃情報ネット「さんばいくん」メール配信 (配信先：排出事業者 1,720 件、産業廃棄物処理業者 5,018 件) |
| H27. 12. 14 | 処理業者 | 「産廃短信」 (配信先：公益財団法人産業廃棄物処理事業振興財団主催経営塾の卒業生及び今年度在籍生（12 期生）314 件) |
| H27. 12. 16 | 排出事業者 | 「リサイクル通信」FAX 通信号外配信 (配信先：排出事業者 1,519 件) |
| H27. 12. 24 | 排出事業者 | 「おしえて！アミタさん」メールマガジン通常号配信 (配信先：排出事業者 10,813 件) |
| H28. 1. 13 | 排出事業者 | 「おしえて！アミタさん」メールマガジン通常号配信 (配信先：排出事業者 10,880 件) |
| H28. 1. 20 | 排出事業者 | 「CSR JAPAN ニュース」メールマガジン通常号配信 (配信先：主に排出事業者 5,389 件) |
| H28. 1. 20 | 排出事業者 | 「おしえて！アミタさん」メールマガジン号外号配信 (配信先：排出事業者 1,731 件) |

[東京会場]

| 実施日 | 集客対象 | 施策 |
|-----------|-------|--|
| H27.12.16 | 排出事業者 | 「リサイクル通信」FAX 通信号外配信 (配信先：排出事業者 80 件) |
| H27.12.24 | 排出事業者 | 「おしえて！アミタさん」メールマガジン通常号配信 (配信先：排出事業者 10,813 件) |
| H28.1.13 | 排出事業者 | 「おしえて！アミタさん」メールマガジン通常号配信 (配信先：排出事業者 10,880 件) |

[広島会場]

| 実施日 | 集客対象 | 施策 |
|-----------|-----------------|---|
| H27.12.16 | 排出事業者 | 「リサイクル通信」FAX 通信号外配信 (配信先：排出事業者 1,459 件) |
| H27.12.24 | 排出事業者 | 「おしえて！アミタさん」メールマガジン通常号配信 (配信先：排出事業者 10,813 件) |
| H27.12.25 | 処理業者 | 山口県産業廃棄物協会ホームページ掲載 http://www.yanpai.com/scripts/detail.php?a=2015122511511153 |
| H27.12.28 | 排出事業者及び 処理業者 | 環境省 中国四国地方環境事務所 広島事務所より メールマガジン配信 (配信先：排出事業者及び処理業者 210 件) |
| H28.1.13 | 排出事業者 | 「おしえて！アミタさん」メールマガジン通常号配信 (配信先：排出事業者 10,880 件) |
| H28.1.20 | 排出事業者 | 「CSR JAPAN ニュース」メールマガジン通常号配信 (配信先：主に排出事業者 5,389 件) |
| H28.1.20 | 排出事業者 | 「おしえて！アミタさん」メールマガジン号外号配信 (配信先：排出事業者 804 件) |
| H28.1.20 | 排出事業者及び 処理業者 | 中国新聞掲載 |
| H28.1.27 | 排出事業者 | 「おしえて！アミタさん」メールマガジン号外号配信 (配信先：排出事業者 4,114 件) |
| H28.2.3 | 排出事業者 | 「CSR JAPAN ニュース」メールマガジン通常号配信 (配信先：主に排出事業者 5,413 件) |

③ 申込方法

CSR・環境業務お役立ちサイト「おしえて！アマタさん」ウェブサイト、優良さんぱいナビウェブサイトへ申込みフォームを設置した。申込み受付業務と事前アンケートの集計業務の効率化のため、申込みフォームは同じものを利用した。

④ 排出事業者の申込方法

主に排出事業者に対して集客を行うため、事務局の運営する「おしえて！アマタさん」ウェブサイトを利用した。トップページの「CSR・環境業務お役立ち情報 最新記事」に掲載するとともに、セミナータブ内に下記の通り掲載を行った。

「おしえて!アミタさん」申込みページトップ画面 (平成27年11月11日公開)

【環境省主催 フォーラム/ワークショップ】連携の先にあるものは? 排出事業者と優良処理事業者のための共創フォーラム | 環境ビジネス、環境事業、CSR活動 関連セミナー

広告掲載について

日刊 CSR・環境業務 お役立ちサイト
おしえて!アミタさん

「日刊おしえて!アミタさん」は、企業のCSR・環境業務
ご担当者様を応援する情報ポータルサイトです。

CSR・環境業務の情報をお届け!
無料メールマガジン登録

| | | | | |
|--------|--------------|------|-----|-------|
| トップページ | CSR・環境業務 Q&A | セミナー | コラム | 担当者の声 |
|--------|--------------|------|-----|-------|

トップページ セミナー 廃棄物リサイクル 【環境省主催 フォーラム/ワークショップ】連携の先にあるものは? 排出事業者と優良処理事業者のための共創フォーラム

おしえて!アミタさん
今日のオススメ記事

emitasanからのツイート
twitter

セミナー

日刊おしえて!アミタさんでは、最新のCSR・環境業務に
使える専門情報を毎日更新中!

TOPページへ行く>>>

「メールマガジン登録」で最新情報をチェック

5分の準備で、
充実の社内教育!

廃棄物管理が
よく分かる
DVD

- 近日開催セミナー
- 2016通年 開催
 - 廃棄物管理の法と実務セミナー
【2016年スケジュール】
 - 大阪愛知東京 開催
 - 廃棄物管理の法と実務セミナー
【入門編】
 - 大阪広島愛知東京 開催
 - 廃棄物管理の法と実務セミナー
【基礎編】
- すべてのセミナーを見る

- テーマから記事を探す
- 廃棄物リサイクル
 - 廃棄物リサイクル技術、廃棄物の知識、機能破壊、スマートリサイクル
 - 廃棄物管理・廃棄法
 - 優良事業者認定制度、産業廃棄物マニフェスト、現地確認、産業廃棄物処理委託契約書、電子マニフェスト
 - 環境関連法・環境対策
 - 地球温暖化対策(省エネ)、化学物質対策(PRTR、REACH)、土対法、大防法、水濁法
 - 自然環境保全・エコラベル
 - 生物多様性、森林保全、FSC、森林認証、MSC漁業認証
 - CSR・地域コミュニケーション
 - レポート、組織・体制、マーケティング、ISO26000、CSR・CSV・環境教育、地域活性、NPO/NGO

【環境省主催 フォーラム/ワークショップ】連携の先にあるものは? 排出事業者と優良処理事業者のための共創フォーラム

いいね! { 10 } ツイート

皆さんは、どんな時に産廃処理会社(もしくは排出事業者)と連絡を取り合いますか? 日常的に廃棄物が出る時、突発的に廃棄物が出た時、環境負荷を下げるために更なるゼロエミッションに取り組むことになった時、グリーン調達等で調査を依頼する時、などでしょうか?



更なるゼロエミッションやグリーン調達を進めようと思うと、産廃処理会社(もしくは排出事業者)への理解と協力は不可欠です。また相互理解を深め連携を図ることで、地域での社会貢献活動など、事業以外でも新たな連携が生まれることもあるのではないのでしょうか? 日々排出される廃棄物については産廃処理会社(もしくは排出事業者)と連絡を取っているかもしれませんが、その会社がどんな方針で事業を行っているのか、主な事業は何かなど会社自身については知らないことが少なくありません。

そこで、今年度も、排出事業者と産廃処理会社がそれぞれの立場から意見交換し、連携・協働について考えるフォーラムを開催いたします。

前回の開催後には、処理困難な廃棄物について排出事業者と産廃処理会社でリサイクルのための研究会が発足されたケースもありました。現在の産廃処理会社(もしくは排出事業者)との連携に課題を感じる方や、新たに産廃処理会社(もしくは排出事業者)を見つけた方はぜひお越しください!

対象

環境業務に携わる本社・事業場の廃棄物管理担当者の方
優良産廃処理業者認定制度における優良認定業者もしくは認定取得を検討中の産廃処理会社の方(※)

※ 優良産廃処理業者認定制度推進の観点から条件を設定させていただいております。認定取得を検討されている段階でも申し込みいただけます。

プログラム

第1部 基調講演 13:00~13:45

環境ビジネスの観点から、排出事業者と産廃処理会社が連携することの意義や連携による発展の可能性についてお話しいただきます。

| 会場 | 講演テーマ / 講師 |
|----|------------|
|----|------------|

担当者の声

環境負荷ゼロを目指
指すソニーの地域
協力を活かした環
境活動とは?

ソニーセミコンダクタ株式会社 熊本テクノロジーセンター 熊本総務部
/ 統括部長 松本 博史氏
/ 統括課長 谷山 健一氏
/ 谷 清明氏

大手酒造メーカー
が取り組む、効果的
かつ継続的な環境
活動とは、

宝酒造株式会社 環境広報部 環境課 課長 中尾 晋幸氏

eco検定は環境教
育の入門編。ぜひ
挑戦してほしい。

東京商工会議所 検定センター
青戸大介氏 松下周平氏

すべての環境担当者の声を見る

日刊おしえて!アミタさん 人気記事ランキング

2015/12/08 更新
業種限定のある産業廃棄物にはどんなものがありますか?

2015/05/26 更新
産業廃棄物を右価で売却するのですが、その代金よりも輸送費の方が高くなってしまいました。この場合、廃棄物処理法は適用されるのでしょうか?

2015/04/07 更新
もし廃棄物処理法違反が発生した場合、どのような罰則を受ける可能性がありますか?

主要会場からセミナーを探す

- 三重
- 京都
- 兵庫
- 北海道
- 千葉
- 埼玉
- 大阪
- 宮城
- 山口
- 岡山
- 広島
- 愛媛
- 愛知
- 新潟
- 東京
- 栃木
- 熊本
- 神奈川
- 福岡
- 群馬
- 茨城
- 静岡

産業廃棄物処理業
行政処分情報



何か5やれば10の半分が5ない…
初心者向け記事一覧

わかりやすい!
産廃マニフェスト
解説記事 総集編

甘くみると怖い
廃棄物に係る
リスク特集

| | |
|-------|--|
| 名古屋会場 | 「廃棄物処理のマネジメントと戦略的連携」(仮) 講師:北九州市立大学大学院 マネジメント研究科准教授 松永 裕己 氏 |
| 東京会場 | 「資源循環における企業・地域社会の連携」(仮) 講師:大東文化大学環境創造学部環境創造学科 准教授 鶴田 佳史 氏 |
| 広島会場 | 「廃棄物処理のマネジメントと戦略的連携」(仮) 講師:北九州市立大学大学院 マネジメント研究科准教授 松永 裕己 氏 |

2011/09/28 更新

[eco検定過去問題\(8~10\)](#)

2014/03/11 更新

[「eco検定応援キャンペーンII」
に関する記事一覧](#)

第2部 排出事業者と処理会社の連携事例紹介 13:45~14:10

排出事業者と産廃処理会社が連携して3Rに成功している事例と成功のポイントについてお話しします。

| 会場 | 講演者 |
|-------|-----------------------------------|
| 名古屋会場 | 東海光学株式会社 品質保証部 ISO推進室 鈴木 幹也氏 |
| 東京会場 | キュービー株式会社 CSR部 社会・環境チーム 松原 由紀氏 |
| 広島会場 | 株式会社オガワエコノス 営業統括・企画開発室 岡 弘氏 |

第3部 ワークショップ

「信頼につながる連携のカタチ」 14:30~17:15

日々の産業廃棄物処理業務の中で、排出事業者/処理会社の対応に困ったことはありませんか?
その困った事例に対しどのように対応されたのか、また排出事業者/処理会社はどうすべきだったかを確認し、信頼につながる連携のためのあるべき排出事業者像/処理会社像について意見交換を行います。

※閉会后18:00まで名刺交換の時間を設けております。

※内容は変更になる可能性があります。

講師



北九州市立大学大学院 マネジメント研究科准教授
松永 裕己 氏

1969年、佐賀県生まれ。九州大学大学院博士後期課程単位取得退学。北九州市立大学講師(1998年~)を経て、現職。専門は環境ビジネス、ソーシャルビジネス。「環境」と「ビジネス」という対極にあるように見えるものを両立させ、相互に発展させていくための方策を研究。著作に『エコタウンが地域ブランドになる時代』(共著:新評論)など。



大東文化大学環境創造学部環境創造学科 准教授
鶴田 佳史 氏

名古屋生まれ。専門研究分野は、環境経営、経営戦略論、環境マネジメントシステム、カーボンマネジメントなど経営と持続可能性に関わる領域全般。これまでに、環境省「コベネフィット型温暖化対策・CDMの推進に関する検討会」委員、国土交通省「日ASEAN 交通連携環境行動計画に関する検討会」委員、東京商工会議所「eco検定アワード2015」審査委員長等を歴任。主な著書は、『よくわかる環境経営』ミネルヴァ書房(編著者)、『カーボン・ディスクロージャー』税務経理協会(編著者)、『サステナビリティと経営学』ミネルヴァ書房(共著)、『現代CSR経営要論』創成社(共

セミナーのご案内

| | |
|-----|---|
| 日時 | <名古屋会場> 平成28年1月26日(火) 13:00~17:20 <東京会場> 平成28年1月28日(木) 13:00~17:20 ※排出事業者の定員は満席となりました。 <広島会場> 平成28年2月10日(水) 13:00~17:20 |
| 場所 | <名古屋会場> ウインクあいち 1202会議室 〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅4丁目4-38 http://www.winc-aichi.jp/access/ <東京会場> 東京国際フォーラム G409会議室 〒100-0005 東京都千代田区丸の内3丁目5番1号 http://www.tiforum.co.jp/general/access/ <広島会場> ワークピア広島 3階 簡ABC 〒732-0825 広島市南区金屋町1-17 http://www.workpia.jp/access/index.html |
| 受講料 | 無料 |
| 定員 | 各会場 排出事業者 25名/処理会社 25名 計50名 |

お申し込み方法

お申し込みは、お申し込みフォームもしくはFAXにて承っております。必ず下記注意事項をお読みの上、お申し込みください。

フォームによるお申し込み

以下のフォームに、必要事項をご記入の上、お申し込みください。

[お申込みはこちら](#)

FAXによるお申し込み

申し込み用紙を印刷し、必要事項をご記入の上、FAXにてお申し込みください。

 [申し込み用紙\(PDFファイル\)](#) / FAX:03-6215-6505

※参加希望日、会場を必ずご確認の上、ご送信ください。

※申し込み用紙のダウンロードや、メールの起動がうまくいかない場合は、お手数ですが、下記のアマタグループ お問い合わせ担当までご連絡ください。

参加証のお届け方法

お申し込み受け付け後、遅くとも開催1週間前までに参加証をメールまたはFAXにて送付いたします。当日は参加証を持ってセミナー会場までお越しください。
(森林認証、水産認証セミナーについては原則として参加証の発送は行いません)

ご注意

講義の録音、撮影はご遠慮ください。
テキストは会場でお渡しいたします。テキストの配布は参加者に限定いたします。
カリキュラム・講師は変更になる可能性があります。
開催可能な人数に満たない場合は、開催を中止、または延期させていただく場合がございます。
同業の方、またはセミナー参加対象者でないと当社で判断した場合は、お断りする場合がございます。
お申し込み多数の場合は、抽選、または1名/社へ制限させていただく場合がございます。

お問い合わせ

アマタグループ お問い合わせ担当
〒604-0847 京都市中京区烏丸通押小路上路秋野々町535 日土地京都ビル2階
TEL: 0120-936-083(フリーコール) / FAX: 03-5215-8505
メールアドレス: ecobrain@amita-net.co.jp
業務責任者:「排出事業者と優良処理事業者のための共創フォーラム」事務局

いいね! 10 ツイート

[産業物リサイクル](#) [産業物管理・廃掃法](#) [CSR・地域コミュニケーション](#)

「日刊おしえて! アミタさん」は、企業のCSR・環境業務で担当者様を応援する情報ポータルサイトです。



メールマガジン登録はこちら ➔

[このページの上へ](#)

⑤ 処理業者の申込方法

主に処理業者に対して集客を行うため、優良認定業者が利用する「優良さんぱいナビ」ウェブサイトを利用した。

〔「優良さんぱいナビ 申込みページトップ画面」〕（平成 27 年 12 月 7 日公開）



環境省主催 フォーラム / ワークショップ

連携の先にあるものは？ 排出事業者と 優良処理事業者のための共創フォーラム

【各会場50社限定】

環境省では産業廃棄物の更なる 3 R や地域での社会貢献活動の展開など、排出事業者と産廃処理業者との連携・協働の可能性について意見交換を行うために、「連携の先にあるものは？ 排出事業者と優良処理事業者のための共創フォーラム」を開催いたします。フォーラムでは、環境ビジネス、ソーシャルビジネスを専門とされている北九州市立大学大学院マネジメント研究科准教授 松永 裕己氏（名古屋・広島会場）、環境経営を専門とされている大東文化大学環境創造学部環境創造学科准教授 鶴田 佳史氏（東京会場）から講演していただく他、排出事業者と優良処理事業者が連携してリサイクル等に取り組んでいる優良事例の紹介を行います。また、本フォーラムの一環として行うワークショップは、排出事業者と優良な産廃処理事業者が一同に介して意見交換を行う数少ない機会です。共通のテーマで意見交換を行うことによりお互いの考え方を知り、信頼関係をつくり、日ごろの不安や疑問を解消し積極的な連携・協働のきっかけの場を創設します。

対象

本イベントは、以下のいずれかに該当する排出事業者様もしくは処理業者様が対象となります。

環境業務に携わる本社・事業場の廃棄物管理担当者の方

優良産廃処理業者もしくは認定取得を検討中の処理業者の方（※）

本イベントの趣旨にご賛同いただき、簡単な事前アンケートにご協力いただけるとともに、ワークショップにも積極的にご参加いただける方をお待ちしております。

※優良産廃処理業者認定制度推進の観点から対象を設定させていただいています。
ご担当者様にて認定取得をご検討されている段階でもお申込みいただけます。

プログラム

第1部 【基調講演】

◇名古屋会場、広島会場 【基調講演】廃棄物処理のマネジメントと戦略的連携（仮）



【講師】北九州市立大学 大学院 マネジメント研究科准教授 松永 裕己氏
1969年、佐賀県生まれ。九州大学大学院博士後期課程単位取得退学。北九州市立大学講師（1998年～）を経て、現職。専門は環境ビジネス、ソーシャルビジネス。「環境」と「ビジネス」という対極にあるように見えるものを両立させ、相互に発展させていくための方策を研究。著作に『「エコタウン」が地域ブランドになる時代』（共著：新評論）など。

◇東京会場 資源循環における企業・地域社会の連携（仮）



【講師】大東文化大学 環境創造学部 環境創造学科准教授 韓田 佳史氏
 名古屋市生まれ。大東文化大学環境創造学部准教授。専門研究分野は、環境経営、経営戦略論、SR、環境マネジメントシステム、カーボンマネジメントなど経営と持続可能性に関わる領域全般。これまでに、法政大学大学院環境マネジメント研究科客員准教授、環境省「コベネフィット型温暖化対策・CDMの推進に関する検討会」委員、国土交通省「日ASEAN 交通連携環境行動計画に関する検討会」委員、埼玉県「環境マネジメントシステム評価委員会」委員、東京商工会議所「eco検定アワード2015」審査委員長、南砺市「域学連携」実行委員会監事、環境経営学会幹事等を歴任。エコアクション21審査人、KES環境

マネジメントシステム・スタンダード主幹審査員、環境カウンセラー（市民部門・事業者部門）。
 主な著書は、『よくわかる環境経営』ミネルヴァ書房（編著者）、『カーボン・ディスクロージャー』税務経理協会（編著者）、『サステナビリティと経営学』ミネルヴァ書房（共著）、『現代CSR経営要論』創成社（共著）など。

第2部 優良事例プレゼンテーション

【名古屋開催】

○東海光学株式会社 品質保証部ISO推進室 鈴木幹也 様

【東京開催】

○キューピー株式会社 CSR部 社会・環境チーム 松原由紀 様

【広島開催】

○株式会社オガワエコノス 企画開発室 室長 岡弘 様

第3部 ワークショップ「信頼につながる連携のカタチ」

日々の廃棄物処理業務の中で、問題に感じる排出事業者/処理業者の対応について、どのように対応するか、また排出事業者/処理業者はどうかすべきだったかを検証し、信頼につながる連携のためのあるべき排出事業者像/処理業者像について意見交換を行います。

<プログラム>

- ・自己紹介・アイスブレイク（20分）
- ・グループワーク（90分）
- ・プレゼンテーション（各グループ3分程度）
- ・フィードバック・気付きの共有（10分）

※ワークは6つのグループに分かれて行い、進行はファシリテーターが担当します。

概要

| | 名古屋会場 | 東京会場 | 広島会場 |
|-----|--|--|---|
| 日時 | 2016年1月26日（火） 13：00～17：20 （開場 12：30～） | 2016年1月28日（木） 13：00～17：20 （開場 12：30～） | 2016年2月10日（水） 13：00～17：20 （開場 12：30～） |
| 場所 | ウイングあいち 1202会議室 〒450-0002 愛知県名古屋市中村区 名駅4丁目4番38号 http://www.winc-aichi.jp/access/ | 東京国際フォーラム G409 会議室 〒100-0005 東京都千代田区丸の内 3丁目5番1号 http://www.t-i-forum.co.jp/general/access/ | ワークピア広島 3階 簡ABC 〒732-0825 広島市南区金屋町1番17号 http://www.workpier.jp/access/index.html |
| 参加費 | 無料 | 無料 | 無料 |

※お申込は1社につき1名様とさせていただきます。

※17:20～18:00まで名刺交換会を予定しています（任意参加）。

参加申込み方法

以下URLの入力フォームよりお申込みください。なお、お申し込みは1社につき1名とさせていただきます。
https://business_form-mailer.jp/fms/8f6ced0449463

注意事項

- ・業種の偏り等、ワークショップのグループ編成における都合により、開催日の2週間前を目処にお断りのご連絡をさせていただくケースがございます。
- ・深夜24:00～6:00の時間帯はお申込ができません。
- ・カリキュラム・講師は変更となる可能性がございます。
- ・天候によって、開催を中止、または延期させていただく場合がございます。
- ・講義の録音、撮影はご遠慮ください。
- ・ワークショップの一部を除き、メディアの取材・撮影が入る場合がございます。

お問い合わせ

「連携の先にあるものは？ 排出事業者と優良処理事業者のための共創フォーラム」事務局
〒102-0073 東京都千代田区九段北三丁目2番4号 アミタ株式会社内
TEL: 03-5215-8267
メールアドレス: ecobrain@amita-net.co.jp

[利用者の皆様へ](#)

[申込みフォーム]

**【環境省主催】排出事業者と優良処理業者のための
共創フォーラム**

* は必須項目です

* 参加希望セミナー日時・場所

平成28年1月26日(火) 名古屋

平成28年1月28日(木) 東京

平成28年2月10日(水) 広島

※平成28年1月28日(木) 東京の排出事業者の定員は満席となりました。

* 名前

姓 名

* 名前(フリガナ)

姓 名

カタカナでご記入ください。

* 会社名

* 事業所名

事業所がない場合は「なし」とご記入ください。

* 部署名

部署がない場合は「なし」とご記入ください。

* 役職名

役職がない場合は「なし」とご記入ください。

* メールアドレス

(確認用)

自動返信メールにて、申込ご確認メールをお送りしております。
また、携帯電話のメールアドレスの場合は、本フォームからの送信ができない場合がございます。予めご了承ください。

* 住所

〒 -

都道府県

市区町村番地

マンション・ビル名

* 電話番号

- -

FAX番号

- -

ご参加いただくにあたり、簡単なアンケートを実施しております。こちらもご記入をお願いいたします。

業種

記入例:

石油製品製造業、産業廃棄物処理業etc

* 参加する立場

- 排出事業者
 産廃処理会社

業務内容

※産業廃棄物処理会社として参加される場合は、貴社PRをご記入ください。

《資源の循環・有効利用に関して》 これまでに自社で排出事業者／処理業者等と連携・協働して実施した取組み事例があればご記入ください。

《日頃の廃棄物管理(処理)業務に関して》 排出事業者／処理業者とのやり取りで困ったことがあればご記入ください。

※排出事業者として参加される方は処理業者の、処理業者として参加される方は排出事業者の対応についての困り事、改善してほしい点があればご入力ください。

<排出事業者>事前に廃棄物の搬出の連絡をしているが、予定通りトラックが来ない。etc
<処理業者>排出事業者から廃棄物の処理依頼連絡が急にくる、ゆとりを持って依頼してほしい。etc

《資源の循環・有効利用に関して》現在の課題意識や今後取組みたいテーマについてご記入ください。

本イベントに期待することは何ですか？

* 個人情報の取扱いへの同意

同意する [こちらをご確認ください](#)

[確認画面へ](#)

⑥ 集客結果

| | | 排出事業者 参加企業数(参加人数) ※定員 25 名 | 処理業者 参加企業数(参加人数) ※定員 25 名 |
|-------|------|----------------------------------|---------------------------------|
| 名古屋会場 | 申込み | 22 社(22 名) | 21 社(21 名) |
| | 当日参加 | 16 社(16 名) | 20 社(20 名) |
| 東京会場 | 申込み | 43 社(47 名) | 26 社(26 名) |
| | 当日参加 | 32 社(36 名) (途中退席 2 名も含む) | 21 社(21 名) (途中退席 2 名も含む) |
| 広島会場 | 申込み | 14 社(15 名) | 22 社(25 名) |
| | 当日参加 | 12 社(13 名) (途中退席 1 名も含む) | 20 社(22 名) (途中退席 1 名も含む) |

⑦ 受付方針

- ・ 基本的には先着順での受付とし、原則として排出事業者、処理会社それぞれ 28 名を超えた時点でキャンセル待ちとする方針とした。
- ・ 優良認定業者を特に優先することはしないものとした。
- ・ お断りする場合、イベント当日の 2 週間前までに申込者への連絡をするものとした。また、参加者へは当日の 1 週間前までに参加証を送信した。
- ・ 東京会場については申込が予想以上に多く、会場にゆとりがあったことから、班を一つ増やし、当初の目標人数以上の方にご参加いただくこととした。

4. パブリシティ・メディア対応

① 環境省ホームページへの開催結果掲載

環境省ホームページにて公表する本フォーラム／ワークショップ開催結果の報道発表の資料作成を行った。

※内容については「資料 6. 環境省ホームページ報道発表資料」を参照

② メディア取材対応

本フォーラム／ワークショップでは取材受付を行い、名古屋会場では株式会社鉄鋼新聞社、眼鏡光学出版株式会社、東京会場では株式会社環境産業新聞社、株式会社環境新聞社、株式会社日経 BP、日報ビジネス株式会社、広島会場では一般社団法人広島県清掃事業連合会より取材を受けた。なお取材内容については、「鉄鋼新聞 2 月 3 日号」（株式会社鉄鋼新聞社）、「循環経済新聞 2 月 8 日号」（日報ビジネス株式会社）、「眼鏡新聞 2 月 11 日号」（眼鏡光学出版株式会社）の記事として掲載された。

5. アンケート

① 狙い

本事業の狙いである(1)排出事業者・処理業者間連携の必要性の認識向上、(2)処理業者の優良認定取得の機運醸成についての効果測定と、(3)処理業者の優良認定制度普及のための施策について利用者より意見を募集することを目的にアンケートを設計し、各会場でのフォーラム／ワークショップ終了後に参加者への回答を求めた。

② アンケート用紙

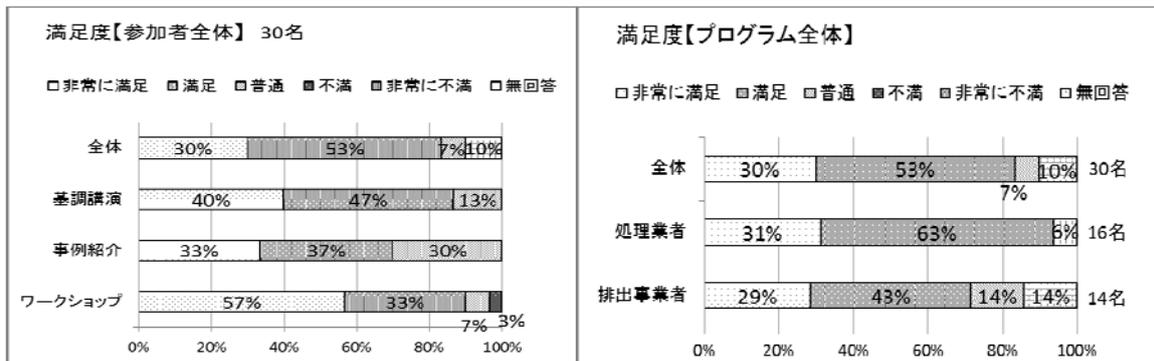
| アンケート | | | | | | |
|--|---|---|---|-----|---|--|
| この度は環境省主催シンポジウム/ワークショップにご参加いただきありがとうございました。今後の参考とさせていただきますので、下記アンケートにご協力ください。 | | | | | | |
| 貴社名 | | | | お名前 | | |
| ※ご記入内容を貴社名・個人名が特定されない形でウェブサイト等に掲載させていただきます場合がございます。 | | | | | | |
| (1) 本日のシンポジウム/ワークショップは参考になりましたか？ 5段階で評価して○をつけてください(5.非常に満足 4.満足 3.普通 2.不満 1.非常に不満)。 | | | | | | |
| 第1部【基調講演】目指すべき循環産業の高付加価値化 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| 第2部 優良事例プレゼンテーション | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| 第3部 ワークショップ「Make the Loop!!」 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| 全体を通しての評価 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | |
| (2) <循環の高付加価値化について>連携・協働による取組み推進のアイデアや気づきが得られましたか？もしくは取組みのきっかけとして役に立ちましたか？ | | | | | | |
| 1.とてもそう思う 2.そう思う 3.どちらとも言えない 4.そう思わない 5.全くそう思わない | | | | | | |
| 【1,2 を選択された方へ】具体的にどのようなアイデア・気づきがありましたか？ | | | | | | |
| | | | | | | |
| 【4,5 を選択された方へ】なぜそのように思われましたか？期待と異なったのはどのようなところですか？ | | | | | | |
| | | | | | | |
| (3) 今後、このようなイベントに参加してみたいと思いますか？ | | | | | | |
| 1.はい 2.いいえ | | | | | | |
| 【1 を選択された方へ】具体的なお要望やアイデア等があればご記入ください | | | | | | |
| | | | | | | |
| (4) 【優良産廃処理業者認定未取得の処理業者の方へ】 本イベントを通して優良認定取得に対する意欲は高まりましたか？ | | | | | | |
| 1.とてもそう思う 2.そう思う 3.どちらとも言えない 4.そう思わない 5.全くそう思わない | | | | | | |
| (5) その他、本イベントを通してのご意見・ご感想等ございましたらご記入ください。 | | | | | | |
| | | | | | | |
| 以上です。ご協力いただきありがとうございました。 | | | | | | |

③ 集計結果

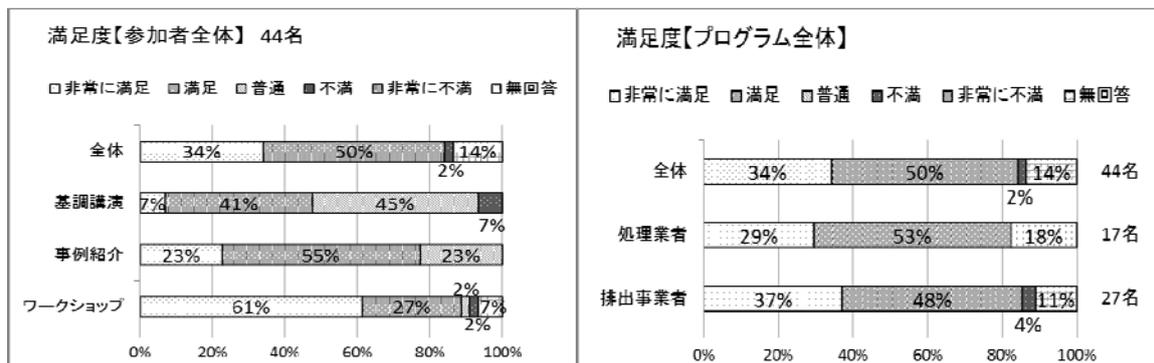
(1) 本日のフォーラム/ワークショップは参考になりましたか？

5段階で評価して○をつけてください(1.非常に満足 2.満足 3.普通 4.不満 5.非常に不満)。

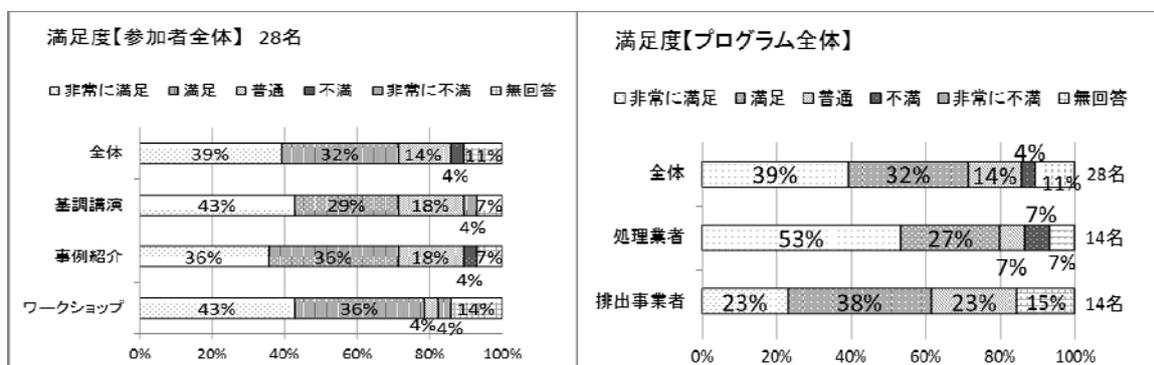
[名古屋会場]



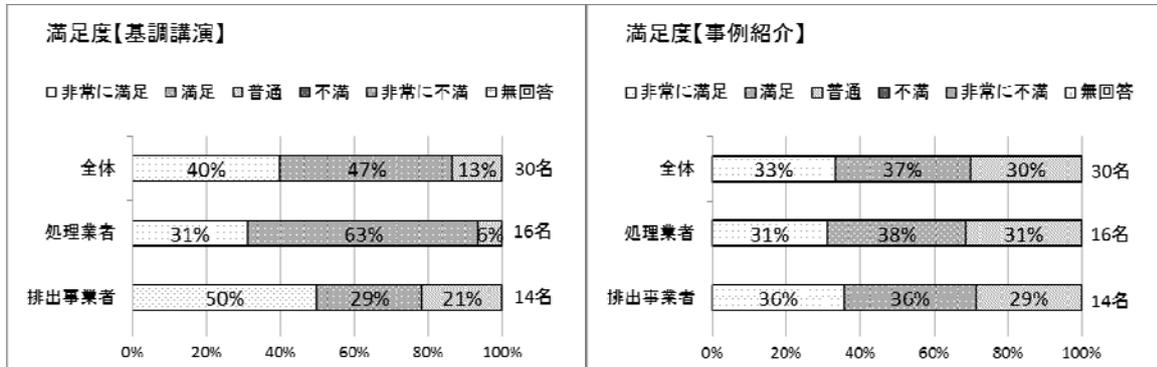
[東京会場]



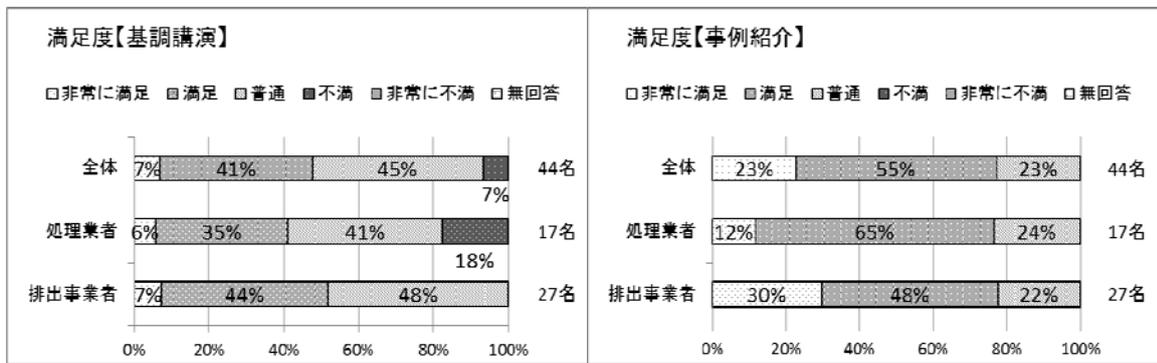
[広島会場]



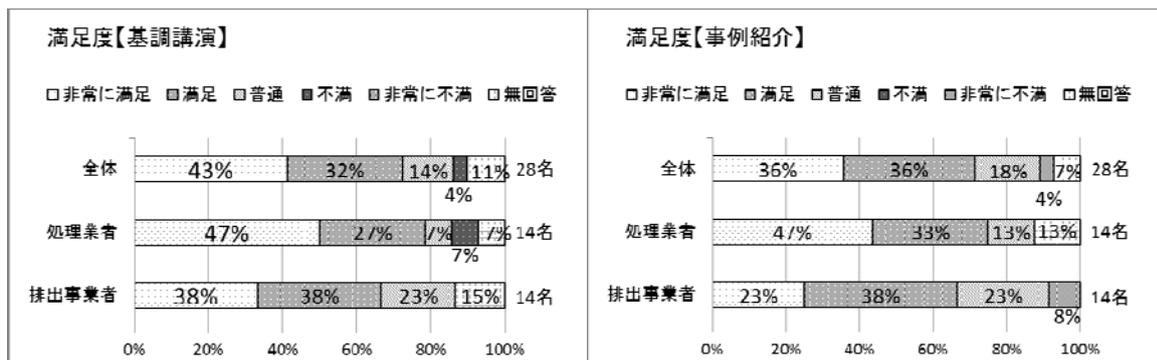
[名古屋会場]



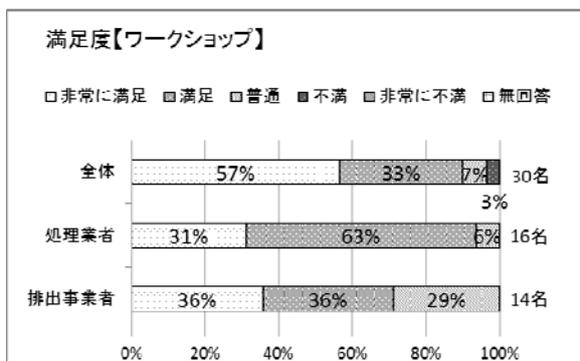
[東京会場]



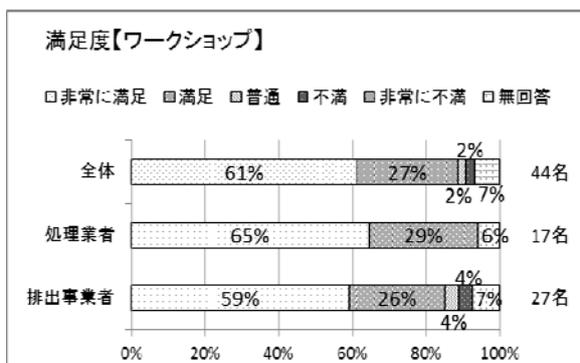
[広島会場]



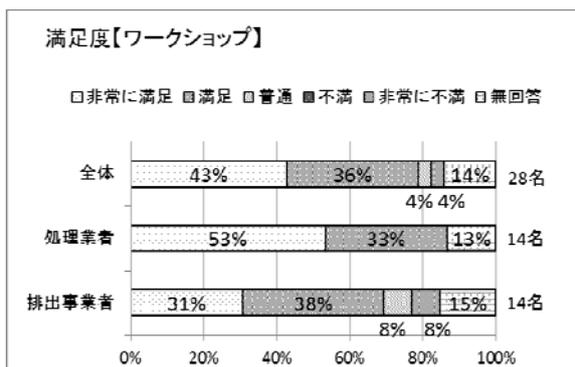
[名古屋会場]



[東京会場]



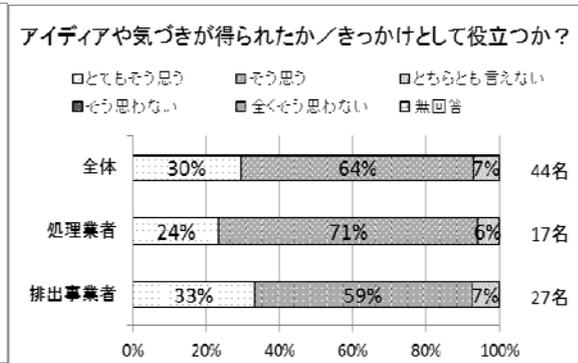
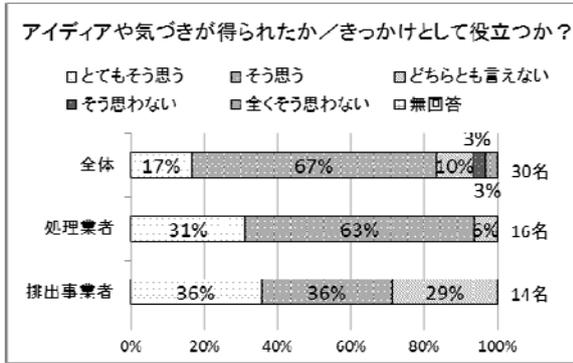
[広島会場]



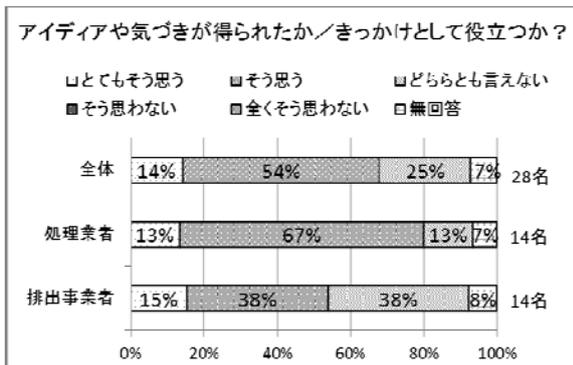
(2) 連携・協働による取組み推進のアイデアや気づきが得られましたか？もしくは取組みのきっかけとして役に立ちましたか？

[名古屋会場]

[東京会場]



[広島会場]



【「1.とてもそう思う」「2.そう思う」を選択された方へ】具体的にどのようなアイデア・気付きがありましたか？

[名古屋会場]

【排出事業者】

- ・ コストダウンの視点「取引コスト」に改善のポイントがある。
- ・ コストの考え方・安全にかかる費用・WDS等の重要性に改めて認識することができた。
- ・ 行政の動きや中間処政業者の情報も必要と分かった。
- ・ 処理業者から直接情報を得るためのコミュニケーションが大切だと思った。
- ・ 排出事業者と処理業者の連携がもっと必要である。
- ・ 処理業者側の考え方がわかった。
- ・ コミュニケーションを多く持つ必要がある
- ・ 少量廃棄物処理について分かった。
- ・ 新しいリサイクル技術開発が必要である。

【処理業者】

- ・ やはりコスト算出難しい
- ・ 営業力、会計力の強化が必要である。
- ・ 排出事業者と処理業者とのコミュニケーションが不足している。
- ・ 処理業者と排出事業者のギャップについて改めて感じる事ができた。排出者のリサイクルニーズの多様化については処理業者の集団で解決策が見出せるのではないかと。
- ・ 排出事業者側と処理業者側で考え方の根底にあるものは似ている。もっとコミュニケーションが取れば解決できる要素が出て来る。
- ・ コミュニケーションの必要性を感じた。
- ・ 排出事業者側の方が真剣に安定的な処理を望まれていることが分かった。
- ・ 排出事業者側の立場で考えた事がなかったので良い機会になった。
- ・ 皆さんの産廃に対する熱意及び配慮がすばらしかった
- ・ 今回のようなフォーラムをやっていただきたい。SNSの場でも良いのではないかと。
- ・ 新しい流れのフォーラムなのでもっと意見交換も進化させてもらいたい。

[東京会場]

【排出事業者】

- ・ 他排出事業者の現状及び処理事業者の現状、取組みを理解することが出来た。
- ・ 委託業者選定基準や情報開示、コミュニケーションの重要性を再認識できた。
- ・ 排出事業者、処理業者も同じような問題がある事に気づいた。

- ・ 処理業者の本音を聞いた。
- ・ 処理業者の方との密なコミュニケーションが重要と感じた。
- ・ 処理業者への廃棄物情報の提供/合わせて先方に合わせた情報提供が必要ではないか。
- ・ 廃棄物の問題は忘れた頃に再発するので伝え続けることが大切である。
- ・ 廃棄物は中央での一括管理が一番良いと思った。
- ・ 特に処理業者側の想いを知ることができ有意義だった。自職場に持ち帰り生かしたい。
- ・ 産廃処理業者の方とのコミュニケーションの必要を感じた。リサイクルに対する処理業者の意欲を感じた。
- ・ win-win の関係を構築するためにはどうしたら良いか。
- ・ 分別委託が必要である。
- ・ タイムリーな話題も含め社内外の認知度をあげる方法について検討できた。
- ・ 悩むところは皆同じだと実感した。皆が困っているのなら法が変われば良いのと思う。
- ・ 他の排出事業者さんがどのようなことをされているのか自社と利害関係のない処理業者さんの意見をうかがうことが出来て良かった。
- ・ 分別の方法、現地確認が必要である。
- ・ とにかくコミュニケーションが大切で各問題の解決のきっかけになる。
- ・ 処分業者の管理方法としての Web カメラの利用など、情報公開することで信頼を得たいと思っていることが分かった。
- ・ 他の処理業者からも積極的にアイデアをもらう。
- ・ 現地確認と業者同志のコミュニケーションが必要だ。
- ・ 取組のきっかけができた。
- ・ IT を駆使した委託契約、マニフェストの管理方法、最処処分先の確認義務への対応方法が分かった。
- ・ コミュニケーションの活発化が必要である。
- ・ 処理業者の声が直接聞けてとても良かった。

【処理業者】

- ・ 排出事業者の方のリアルな声を聞いた。
- ・ リサイクル商品の販売で連携できると良い。
- ・ 排出事業者の担当者も経験不足等で大変であることが分かった。
- ・ 許可証や契約書の扱いについて排出事業者の問題意識がある事がよく分かった。
- ・ 排出事業者とのコミュニケーションのきっかけとなった。
- ・ 複数社合同現地確認が有効である。
- ・ 排出事業者様と課題を共有できた。
- ・ 排出事業者への提案の更なる見える化が必要である。
- ・ 具体的に何をどう進めれば良いかについてヒントを得られた。

- ・ 排出事業者がどのような事に困るか知ることができた。今後の事業活動につなげていきたい。
- ・ 処理業者からコミュニケーションを積極的にとることが重要である。
- ・ 顧客は情報や提案を求めている。
- ・ 排出事業者の担当者の立場で処理業者に求める事項が直接対話により見えてきたので、自社の今後の経営における改善点、課題として受け入れられた。
- ・ 排出事業者の業種により課題が異なるかと思ったが共通の課題が多く、それについて具体的な解決方法がたくさん示されたので参考になった。特に現地確認、コミュニケーションなどについて議論となった。
- ・ 情報開示・コミュニケーションが大切である。
- ・ 排出事業者の意見が直接聞けて参考になった。

[広島会場]

【排出事業者】

- ・ 意見交換による情報共有化が必要である。
- ・ 現在取引のある処理業者が優良認定を受けているか確認したい。
- ・ 日々のコミュニケーションの重要性よくわかった。
- ・ 現場確認チェックシートについて自社の盲点も見えた。
- ・ 処理業者から、再生への提案があれば良いとの意見があった。積極的にアプローチしたい。
- ・ 排出事業者と処理業者の互いの「思い」が確認できる良い機会だった。
- ・ コミュニケーションの大切さを改めて感じた。

【処理業者】

- ・ 1つの方向から見るとではなく先の広い目で見ることが大切だと思った。
- ・ コミュニケーションが大切なのだと思う。
- ・ いつもは自分の地域の中に閉じこもっているのに、このような時に他所の情報を知れたのは良かった。
- ・ 排出事業者との意見交換が出来た。
- ・ 課題はその時その時で変わっていく。その課題に対してしっかり、情報提供できるか対応できるかが重要である。
- ・ 互いの立場で意見を聞く事が出来た。
- ・ コミュニケーションの重要性が分かった。
- ・ 開発段階から処理会社をまき込むことが出来ないか。やはり信頼関係が大切である。
- ・ 産廃もコンサルが役立つということがよく分かった。ネットワークの重要性もよく分かった。
- ・ 排出事業者、処理業者共に連携は必要だと思う。

- ・ 普段の業務において考えたことのない色々なことが勉強になった。
- ・ 排出事業者と同じ悩みを共有できたことが前進だと思った。

【「4. そう思わない」「5. 全くそう思わない」を選択された方へ】なぜそのように思われましたか？期待と異なったのはどのようなところですか？

[名古屋会場]

【排出事業者】

- ・ 具体的な課題解決につながらなかった。

【処理業者】

- ・ 経済性の観点が問題視されてなかった。

[東京会場]

【排出事業者】

該当なし

【処理業者】

該当なし

[広島会場]

【排出事業者】

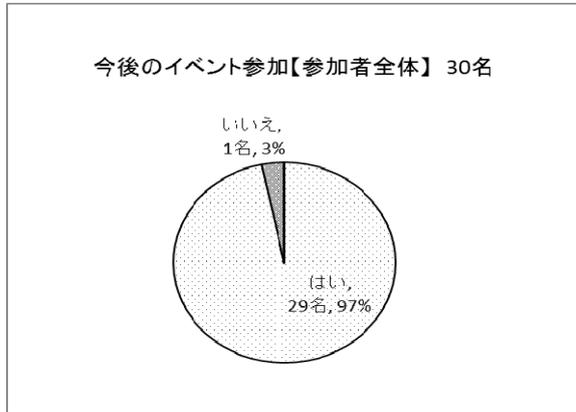
該当なし

【処理業者】

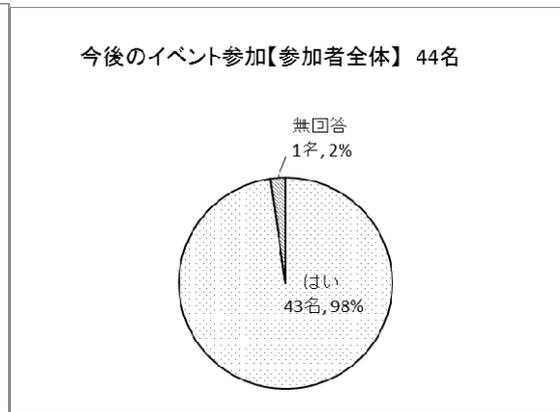
該当なし

(3) 今後、このようなイベントに参加してみたいと思いますか？

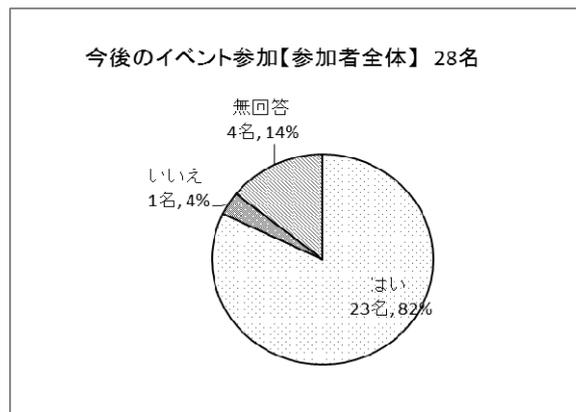
[名古屋会場]



[東京会場]



[広島会場]



【「1.はい」を選択された方へ】具体的なご要望やアイデア等があればご記入ください

[名古屋会場]

【排出事業者】

- ・ 運搬・中間・最終処理業者と製造事業者とのコミュニケーションを行う。
- ・ 意見交換会の時間を作る。
- ・ 参加企業（処理業者）が固定されてきている。もっと広く中小の企業に参加してもらいたい。
- ・ 有価物業者と排出事業者で行う。
- ・ 今回と同様なもので良い。
- ・ 業界を限定するとより深い話ができると思う
- ・ 半日だと時間が短いので1日のプログラムでも良い。

【処理業者】

- ・ こういった機会はどんどん作るべきだと思う。
- ・ ワークショップに環境省（行政）が参加すると良い。
- ・ 排出事業者が処理業者の会社で現地を見る。
- ・ 排出事業者（役員クラス）に対する環境への取組を強化する様なセミナー等により、現場担当者の責任（仕事内容）を深く理解できるような仕組みがあると良い。
- ・ 徹底したコストの議論があると良い。
- ・ 地域別など具体的な議論ができると良い。
- ・ 法改正について聞きたい。

[東京会場]

【排出事業者】

- ・ 初心者向けの、排出事業者と処理業者の意見交換会
- ・ 排出事業者と処理業者の認識のズレがある場合、そのギャップを埋めるのに役立つので、第3部ワークショップの拡充を希望する。第1部はなくて良い。
- ・ ここで出た情報を持ち帰れる形にした方がよい、排出事業者、処理業者双方のコミュニケーションの場を増やしていくべきと思う
- ・ 現地確認、適正処理について、資源循環についてなど、各グループへの討議テーマを事前に決めてはどうか。
- ・ もっと取り組みやすいテーマが良い。
- ・ 建設リサイクル法と廃棄物処理法の連携についてはどうか。
- ・ 年に数回開催し、多くの人に参加して欲しい。
- ・ 途中で他のグループと入れ換えてもらってもっとつながりができる。

【処理業者】

- ・ 定期的な開催を希望する。
- ・ 色々な業種の方とワークショップがしたい。
- ・ 排出事業者の意見を多く聞ける機会がほしい。
- ・ この形態を何回か繰返してほしい。
- ・ テーマがやや難しかった。
- ・ 事前に提案された議題について排出事業者と処理業者間で課題の深掘する場になると良い。
- ・ グループワークの時間を充実して欲しい。
- ・ 今回のように、立場の異なる排出事業者、処理業者が同じテーブルで議論できると良い。

[広島会場]

【排出事業者】

- ・ 排出事業者が安全に廃棄物処理を依頼するための留意点とノウハウを知りたい。
- ・ 排出事業者、処理業者が同じ問題を共有出来る、今回のようなフォーラムが良い。

【処理業者】

- ・ 体験談を知りたい。
- ・ 排出事業者との意見交換が良い。
- ・ 今回と同じようなフォーラム/ワークショップに再度参加したい。
- ・ 多業種で意見交換ができると良い。
- ・ 連携は排出事業者と処理業者だけではないので今後いろいろなテーマがあり得ると思う。
- ・ ニーズの近い方とセッティングし、マッチングに近い形になると良い。
- ・ 産業廃棄物の種類別でイベントがあれば良い。
- ・ 今日みたいな形が良い。

(4) 環境省では優良産廃処理業者認定制度を推進していきたいと考えています。広く普及するためにはどのようなことが必要だと思われますか？ご意見をお聞かせください。

[名古屋会場]

【排出事業者】

- ・ 廃掃法の資格取得について危険物や高圧ガスレベルで設定すべきである。そうしないと勉強する機会がないため廃掃法違反を犯してしまう。厳しさを学ぶ必要がある。
- ・ 優良認定業者の税金を優遇する。
- ・ 料金体系の標準化、料金の透明化が必要である。
- ・ 産業廃棄物協会の協力を得て、認定条件をクリアするように指導やアドバイスをする。
- ・ 優良認定業者への金銭的なインセンティブ、優良認定業者に委託した排出事業者への、届出をなくす等のインセンティブを創設すると良い。
- ・ 更新する際、データ入力不足で「優良認定」が取れないと聞く。できれば注意を喚起する意味で公文書で通知してほしい。そうすることにより ISO14001 の監査の対象になる。
- ・ 処理業者のメリットが必要である。
- ・ 例えば専門性のある企業に毎年現地視察をしてもらいその結果を HP 等でわかるようにして企業の現地視察を無くす。
- ・ もっと宣伝しメリットを明確にすれば良い。
- ・ 各自治体と協力して公開するように望む。

【処理業者】

- ・ 情報公開の場の提供

- ・ 排出事業者、処理業者双方へのメリット。今は少な過ぎる。
- ・ 優良←味気ない。名刺に入れるようなエンブレムがあるといい。
- ・ 自治体等の処理を、優良処理業者を優位になる様な配慮がいただきたい。
- ・ 処理業者、排出事業者など関係者だけでなく全国民に周知する。
- ・ 明確なメリット（インセンティブ→収入仕事）を提示する。
- ・ 優良評価の意義が薄くなっている。待っていて当たり前の状況になっている、認定業者の中でも区分化して欲しい。
- ・ 取得業者への十分なエサを与える。
- ・ もっとメリットが必要。
- ・ メリット（処理費用）
- ・ 処理業者が優良を取るメリットと事業者の認識向上

[東京会場]

【排出事業者】

- ・ 優良認定取得のメリットを明確化・拡充する。
- ・ 環境省と企業トップのコミュニケーションをもっと高めてほしい。
- ・ 現地確認を緩和する。
- ・ 認定されることによるメリットを更に増やす。
- ・ もっとメリットが必要である。現地確認不要だけでは排出事業者、処理業者側にもメリットが少ない、
- ・ 「優良」の内容をもっと普及すべきと思う。なぜ「優良」なのかが専門家以外にはわかりにくいのではないか。
- ・ 排出事業者がどの様な観点から処理業者を選択しているのかアンケートを行う。
- ・ 優良認定業者を利用することのインセンティブが排出事業者に感じられるようにする。
- ・ 都・県と連携する。
- ・ 優良認定の精度を上げ排出事業者責任を低減すると、優良認定業者を選定する排出事業者が増加する。
- ・ 認定制度を普及する。
- ・ 優良認定業者に委託した場合、排出事業者責任を軽くし、将来的には責任をなくすことの検討を要望する。
- ・ 規制緩和の項目を増やす。
- ・ もっと優良認定業者への優遇策を考えてほしい。
- ・ 行政による実地確認を通じて、安心して委託できることを担保する。その代わりに、排出事業者は実地確認を不要とする。但し、費用は応分を払う。
- ・ 優良認定業者に処理委託をすれば、排出事業者責任を軽減できる制度を明確化する。
- ・ 優良さんばいナビの向上を進め、更に排出事業者としての情報収集ができることを期待し

ている。

【処理業者】

- ・ 自治体、関連する行政機関等が排出する廃棄物処理入札資格条件を優良認定業者に絞る。
- ・ ISO14000 取得の条件に「廃棄物は優良業者に出すこと」を明確化できないか。
- ・ 排出事業者、処理業者にとって法的にももっとメリットを出してほしい。
- ・ 処理業者の更新及び新規施設の許可のスピードを上げる。
- ・ 優良認定業者は安全だ、という担保を高める。
- ・ 優良認定業者への担保をし、優良認定が取れたら処理業者に排出事業者責任を移行させる。優良認定への思いが高まり悪い業者はいなくなる。
- ・ 普及も必要だが、制度のクオリティーを上げて厳しくした方が将来的には良いと。
- ・ 財務諸表公開に尽きると思う。
- ・ 排出事業者にとって信頼度の高い制度となる為に、もっと評価基準項目を増やして優良認定業者をレベルアップすることが必要である。
- ・ 排出事業者に選ばれれば普及するのではないか。
- ・ インセンティブをもっと与えてほしい。例えばリサイクル処理の推進しやすさ、排出事業者責任の免責などでも良い。

[広島会場]

【排出事業者】

- ・ 情報開示をする。
- ・ 助成などのメリットについてももう少し拡充する。
- ・ 事務手続の簡易化、環境省の立入によるお墨付きを与える。
- ・ 優良認定取得のインセンティブがないような気がする。また推持する手続も大変である。
- ・ 優良認定制度の付加価値を定量化すればより有意義になる。
- ・ 優良認定業者だけでなく排出事業者のメリットも考慮すると良い。
- ・ 優良認定を受けたメリットを強化すべきである。
- ・ 排出事業者向けのメリットをアピールする。

【処理業者】

- ・ メリットを多く与えたら良いと思う。
- ・ もう少し中小企業でも取りやすい形になれば普及するとは思いますが、それでは制度の目的に反するような気もする。
- ・ メリットが少ない。常に向上出来る様にすべきである。
- ・ 排出事業者が、優良認定業者を進んで選択するような仕組作りをすべきである。
- ・ 業種（収運、中間処理）により基準が異なり、中間処理が不利だと思う。

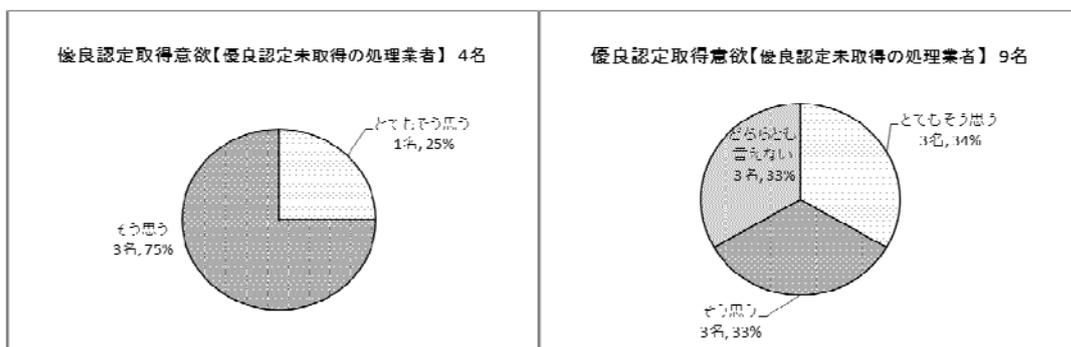
- ・ インセンティブを与えるしかない。
- ・ 広報が重要である。
- ・ 国として推進していく。

(5) 【優良産廃処理業者認定未取得の処理業者の方へ】

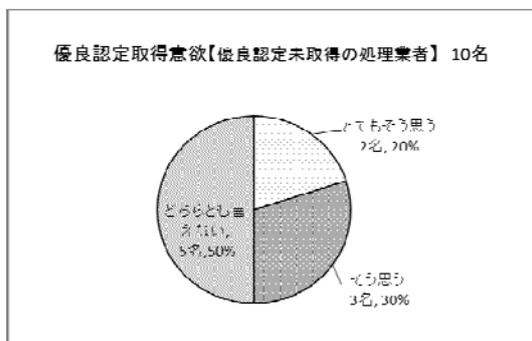
本イベントを通して優良認定取得に対する意欲は高まりましたか？

[名古屋会場]

[東京会場]



[広島会場]



(6) その他、本イベントを通してのご意見・ご感想等ございましたらご記入ください。

[名古屋会場]

【排出事業者】

- ・ 近畿圏での開催を検討頂きたいと思う。
- ・ このような意見交換は良い機会であり、今後も名古屋で行ってほしい。
- ・ 優良認定の取得が進み、優良認定業者の割合が 60%を超え標準となったら、どのように判断すべきか考えている。
- ・ 大変勉強になった。
- ・ 排出事業者の業界毎に開いてはどうか。

【処理業者】

- ・ 今後も継続してほしい。

- ・ ワークショップの時間が短い。アイデア出しまで考えがまとまらなかった。
- ・ 時間がタイトな気がした。
- ・ 今回の発表内容が欲しい。今後のサービス向上の手助けになればと考えている。
- ・ 電子マニフェストの運用について、普及を促進させる為にも改良を迅速に行ってほしい。
- ・ メールマガジンで月間フリーワード検索ランキングを公表して見たらどうか。ユーザーがどんなことに興味があるか情報が欲しい。

[東京会場]

【排出事業者】

- ・ 排出事業者と処理業者の間の連携だけでなく、これに行政（中央、地方）も入れるべきであると思う。民間だけで解決できない問題も多い。
- ・ 廃棄物処理法はやはり難解である。性悪説で取り組むと非常に人手と金が掛かる。
- ・ 廃プラは燃料化してゴミ発電等を積極的に考えるべきではないか。
- ・ グループ討議は場所が狭く、声が聞きづらい。
- ・ 参加者はある程度廃棄物に関する知識は持っているとして、過去の廃棄物処理のトラブル事例の解説を入れたらどうか。
- ・ とても良いフォーラムで参考になった。

【処理業者】

- ・ 皆さん思いが強く、適正処理の実況の為、努力しているのだと感じた。
- ・ 廃棄物処理法の「1からの作り直し」は、そろそろ必要かもしれない。10年後に素案完成くらいを目安に廃棄物資源循環学会などに検討・取りまとめを依頼しても良いと考える。
- ・ 排出事業者の方と良いコミュニケーションが取れる事できた。
- ・ 意見の出しやすい雰囲気作りができていたと思う。
- ・ 「排出」と「処理」両者のコミュニケーションアップが適性処理の推進に必要と実感した。
- ・ 各参加者がイベントに期待する事に対するフィードバックもあっても良いのではないか。
- ・ 欠席者が多く参加者の偏りがあったので、グループ分けを工夫すると良かった。

[広島会場]

【排出事業者】

- ・ 業務に活かすため、発表時のホワイトボードの写真がほしいと思った。
- ・ 本音の意見が出て活発なイベントになった。
- ・ 大変参考になった。今後も参加したいと思う。
- ・ いろんな企業（異業種）の方の意見が聞けたことが良かった。
- ・ 各事業者の素直な意見を聞いて良かった。処理業者への情報提供を活発に実施したい。

【処理業者】

- ・ ワークショップはとても良かった。
- ・ 都道府県によって廃棄物行政の姿勢が異なるので、環境省だけでなく複数の都道府県の担当者を呼べないか。

III. 総括

1. 排出事業者及び処理業者間の連携の促進について

- ・ プログラム全体の満足度は開催地域に関わらず高く（「非常に満足」及び「満足」の割合：名古屋 83%、東京 84%、広島 83%）、ワークショップの満足度は非常に高い（「非常に満足」及び「満足」の割合：名古屋 90%、東京 88%、広島 82%）結果となった。今年は排出事業者と処理業者の連携のあり方を直接問う内容となっており、ワークショップのテーマとしては難しいものであったが、本質的なテーマ設定であったために両者が本音ベースで意見交換ができたものと考えられ、満足度に繋がったと思われる。
- ・ ワークショップから、排出事業者・処理業者間に起こる課題について、コミュニケーションを通じて解決していくことの必要性や、具体的なコミュニケーション方法についての意見が多数挙がり、本フォーラムの目的である「信頼関係のきっかけ作り」は達成できたと考えられる。
- ・ アンケート回答者の大多数（名古屋 97%、東京 86%、広島 83%）がこのような企画があれば次回も参加したいとの回答であった。排出事業者と処理業者との連携のためにはコミュニケーションの促進が必要であることは明白であり、また、本フォーラムは実務の枠を超えて連携のあり方について意見交換できる稀有の場であり、今後も継続的開催が求められている。
- ・ 産廃処理業継続のためには行政や地域住民との関係構築が必須である。また排出事業者にとっても自社の委託する廃棄物の処理において行政や地域住民との関係構築は必要なことから、地方においては行政担当者も交えた意見交換が必要である。

【排出事業者及び処理業者間の連携の更なる促進（案）】

- 全国の主要都市にて、行政・排出事業者・処理業者との意見交換会の開催

2. 処理業者の優良認定取得の機運醸成について

- ・ 名古屋会場では回答者 4 名全員が、東京会場では回答者 9 名のうち 67%が、広島会場では回答者 10 名のうち 50%が、優良認定取得の意欲が高まったとする結果が得られた。
- ・ 一方で、東京会場では 33%の方が、広島会場では 50%が「どちらともいえない」と回答しており、優良認定取得の意義が見出だせなかった方もいる。「3. 処理業者の優

良認定制度普及のための施策について」に記すような施策を行うことにより、優良認定業者の優位性がより分かりやすくなることで、より一層の取得が進むと思われる。

3. 処理業者の優良認定制度普及のための施策について

- ・ アンケートで最も多い意見はメリットやインセンティブを増やすことであった。排出事業者へもメリットやインセンティブを設定することで、優良認定業者に優先的に委託する排出事業者が増え、それにより優良認定を取得する産廃処理業者も増えるのではないかと予想される。
- ・ アンケートでは、優良認定制度のロゴを作り、優良認定業者は名刺等でそのマークを利用できるようにしてはどうか、という意見もあった。優良認定業者を増やすには排出事業者への更なる認知拡大も必要であり、排出事業者がよく利用する環境省ホームページや「産廃情報ネット（さんぱいくん）」、排出事業者のイントラ内等にて「優良さんぱいナビ」WEBサイトとの連携を図る、地方都市での優良認定制度活用のためのセミナーを開催するなどの認知拡大へ向けて更なる施策が必要と考えられる。

【処理業者の優良認定制度取得の促進に関する施策（案）】

- 排出事業者・産廃処理業者へのメリット・インセンティブの設定
- 排出事業者への優良認定制度の更なる認知向上
 - ・ 優良認定制度を活用している排出事業者及び優良認定業者向けのロゴマーク制作・活用支援
 - ・ 排出事業者の閲覧頻度が高いWEBサイトと「優良さんぱいナビ」のサイト連携拡大
 - ・ 地方都市での優良認定制度活用のためのセミナーの開催

4. 運営面について

- ・ 東京会場以外、特に広島会場での申込者数が目標に達しなかった。今回は「CSR 処理」というサプライチェーンの観点で廃棄物処理を見据えた形で訴求したため、本社環境担当者に響く内容となっており、本社の数に比例して申込者数の差が出たと考えられる。優良認定制度普及のためには、排出事業者の本社環境部門の委託先選定基準に入れることが有効であり、排出事業者本社へのアプローチは不可欠である。今後は、例えばフォーラムを三回開催する場合は東京会場は二回、名古屋・大阪等の主要都市にて一回開催するなど、主要都市での開催を増やすことが望まれる。
- ・ 地方都市においては、排出事業者が「優良さんぱいナビ」を有効に活用できるように、優良認定制度そのものや「優良さんぱいナビ」の使い方に関する実務に近いセミナーを開催することを提案する。

【運営についての改善案】

- 首都圏では複数回開催、中部・関西圏でも一回開催
- 地方都市では優良認定制度そのものや「優良さんぱいナビ」利用方法等実務に関する内容にてセミナーを開催

以 上